

第20回明治大学中央図書館企画展示

# ～聖書の挿絵～

木版挿絵入西洋初期印刷本零葉コレクションより



会場：明治大学中央図書館ギャラリー

会期：2007年5月18日(金)～6月24日(日)

# 聖書の挿絵開催にあたって

—明治大学図書館所蔵「木版挿絵入西洋初期印刷本零葉コレクション」より

「木版挿絵入西洋初期印刷本零葉コレクション」は、明治大学図書館が2004年度に購入したもので、15世紀のインキュナブラ（揺籃期本）\*を中心とした、837葉（120書誌）におよぶ挿絵を含んだリーフの稀少なコレクションです。15世紀ヨーロッパの出版物のおよそ半数は、聖書、時禱書<sup>じとうしよ</sup>といった宗教書ですが、このコレクションにも、聖書の挿絵が、48葉（20書誌）含まれています。本展示では、この聖書の木版挿絵のうち28点を選んで展示します。

西洋での最も古い木版画は1400年頃に誕生したと考えられています。当時の木版は板目木版といって、胡桃やブナなどの木を縦に切り出した平らな板に絵師が下絵を描き、彫り師が鑿やナイフなどで彫って版木を作るのが一般的でした。最初期の木版画は、キリストや聖人、聖母子といった宗教画を印刷した絵やお守り、壁紙として、またゲームカードなどにも使われましたが、現存するものはきわめて稀です。

15世紀も半ば頃になると、木版画は大量に生産され、15世紀中葉にマインツのグーテンベルクが活版印刷術を発明すると、印刷術の普及に伴い、やがて挿絵入りの活字本が誕生することになります。

活字本の初期には、写本と同じように活字やボーダーに彩色が施され、絵や文様なども描きこまれていましたが、木版画は活字印刷と同じ凸版であることから、活字の組版と木版の版木を組み合わせると同時に印刷することが可能でした。こうして、活字印刷本と木版画が結びつき、15世紀には、木版画を挿絵として使用した美しい書物がたくさん生まれました。

書物の挿絵は16世紀になると、エンブレイヴィングやエッチングといったより細密な表現を可能とする銅版画にその座を譲ることになりますが、15世紀の木版画はその大半が無名の下絵師や彫り師たちによって作られ、手彩色をほどこされたものが多くあります。本展示では聖書の挿絵のみを展示していますが、当時の読者層の精神世界を垣間見ると共に、その素朴な味わいに触れることができるでしょう。

\*活版印刷術の誕生から16世紀に入るまでの約半世紀の間に、ヨーロッパ各都市（マインツ、ケルン、ニュルンベルク、ヴェネチア、パリ、ローマなど）で印刷刊行された書物。17世紀に命名された書誌学用語。

## ルター以前のドイツ語聖書

1522年9月21日、ヴィッテンベルクのメルヒオール・ロターの印刷工房からドイツ語訳新約聖書が出版された。マルティン・ルターによるいわゆる「九月聖書」である。印刷部数は恐らく3,000部、頒価は2分の1グルデン、大工職人の週給に当る。彼が依拠したのは、エラスムスによりバーゼルのフローベン印刷工房から刊行されて間もないギリシャ語・ラテン語版であった。「ヨハネ黙示録」には、同じヴィッテンベルクのルーカス・クラナハによる大判の木版画が挿入されている。この聖書はこの年のうちにバーゼルでも出版され、それ以降は瞬く間にドイツ全土で印刷された。また1534年9月には旧約聖書を併せ、多くの外典も含んだ高地ドイツ語版完全訳聖書も刊行されている。「誰もが神の言葉を聖書から直接読み取ることができるように」との主張をルターは実行に移したのであった。

だがこの時代に聖書のドイツ語訳を志したのは、その目的は異なるものの、ルターだけではなかった。彼の聖書以前に既に18点ものドイツ語聖書が、しかもその多くが木版挿絵入りで刊行されていたのである。刊行年順に通称、出版地、出版者をみておこう。

1466年「メンテリン聖書」 シュトラースブルク ヨーハン・メンテリン (1410?-78)

1470年「エゲシュタイン聖書」(「メンテリン聖書」の改良版)

シュトラースブルク ハイน์リヒ・エゲシュタイン (1415/20-88以降)

1475年「ツアイナー聖書」 アウクスブルク ギュンター・ツアイナー (?-1478)

1475年「プフランツマン聖書」 アウクスブルク ヨードクス・プフランツマン (生没年不明)

1476/78年「ゼンゼンシュミット聖書」(75年版「ツアイナー聖書」を模倣)

ニュルンベルク ヨーハン・ゼンゼンシュミット (?-1491?)

1477年「ツアイナー聖書」 アウクスブルク ギュンター・ツアイナー

1477年「ゾルク聖書」 アウクスブルク アントン・ゾルク (1430?-1493?)

1478/79年「ケルン聖書」(低地ドイツ語版2種：ニーダーザクセン方言版と低ライン方言版) ケルンハイน์リヒ・クヴェンテル (1440?-1501) とボン近郊ウンケル出身バルトロメウス (?-1484?)

1480年「ゾルク聖書」(77年版「ツアイナー聖書」の模倣) アウクスブルク アントン・ゾルク

1483年「コーベルガー聖書」(挿絵に「ケルン聖書」の版木を転用)

ニュルンベルク アントン・コーベルガー (1440/45-1513)

1485年「グリュニンガー聖書」 シュトラースブルク ヨーハン・グリュニンガー (1455?-1532?)

1487年「シェーンスペルガー聖書」 アウクスブルク ヨーハン・シェーンスペルガー (?-1523?)

1490年「シェーンスペルガー聖書」 アウクスブルク ヨーハン・シェーンスペルガー

1494年「リューベク聖書」(低地ドイツ語版) リューベク シュテフェン・アルンデス (生没年不明)

1507年「オトマール聖書」 アウクスブルク ヨーハン・オトマール (?-1514?)

1518年「オトマール聖書」 アウクスブルク ジルヴァン・オトマール (?-1539?)

1522年「ハルバーシュタト聖書」(低地ドイツ語版)

ハルバーシュタト ローレンツ・シュトゥクス (生没年不明)

最初の「メンテリン聖書」は1350年頃バイエルンでつくられた写本に基づく。印刷面での特徴は、版型がいずれも二折り〔フオリ〕か四折り版。メンテリンとエゲシュタインは文字のみの印刷で販売価格を抑制し、購入者の好みによって挿絵を描かせることを考えた一木版を用いて挿絵を印刷する技法は既に開発されていた。1475年のツァイナー版で初めて、旧新両聖書の諸書の冒頭語の頭文字が、木版に図像を添えて印刷されてからは全てが挿絵入りになる。因みに1483年「コーベルガー聖書」は発行部数が多く、1,000あるいは1,500部か。次に注目すべきは18のうち14聖書が南ドイツ、しかも半数の9点もがアウクスブルクで印刷されたことだろう。ここは十四世紀末頃から有力な商業都市に発展し、町とその周辺には製紙用水車が多数設置されて、ゾルクやシェーンスペルガー等、自前の水車を持つ印刷業者もあったという。これに対し低地ドイツ語の4聖書に注目しなければならない。標準語という考え方がなかった時代である。方言としての大きな分類である南ドイツの高地ドイツ語と北ドイツの低地ドイツ語の、どちらによる聖書かということであり、ルターがドイツ全土に通用する翻訳に腐心したことと併せて、夫々の地域の信者に向けた聖書の存在がこれらによって確認できるであろう。このうち特に「ケルン聖書」2種と「リューベク聖書」は夫々百を超える優れた挿絵により信者の聖書理解を促したという。

ところでこの時代に教会当局により唯一認められた旧約新約聖書は、教父ヒエロニムス(347?-419/420)によるラテン語訳ウルガタ聖書であり、上記の聖書はいずれもその完全訳である。しかも翻訳に当っては可能な限り原文を模倣し、近代語の文構造に置き換えないように、ウルガタの個々の言葉には聖霊が宿っているのだから、とは当局のお達しである。また序文にヒエロニムスの名を記すことで、当局の意に沿った「ドイツ語訳」であることを示すのである。だが「ケルン聖書」だけは2種ともに序文に聖ヒエロニムスの名が記されることはない。また奥付〔コフオン〕には出版地、出版者だけではなく、出版年さえ見られない。この頃オランダから北ドイツにかけては、宗教改革の底流ともなるデヴォツィア・モデルナ運動が浸透しており、この教会内改革運動にはカトリックの聖地ケルンのカルトウジオ修道会が関与していたかもしれないのである。修道会図書室の聖書写本が「ケルン聖書」の印刷につかわれたとの指摘もなされている。聖書の近代語への翻訳が「異端」に荷担する恐れさえあったわけである。

本学図書館所蔵「零葉コレクション」から、ドイツ語訳聖書9点の他にチェコ語訳聖書1点から、聖書の内容に沿って展示する。

近代語訳聖書：チェコ語訳 10「クッテンベルク聖書」；ドイツ語訳 11「ツァイナー聖書」；12「ゼンゼンシュミット聖書」；13「ケルン聖書」；14「ゾルク聖書」1480年；15「グリュニンガー聖書」；16「シェーンスペルガー聖書」1487年版；17,18「オトマール聖書」1507年、1518年版；19「(版不明)」

(明治大学図書館)

### 解説凡例

① 聖書の通称と出版年、展示面については旧約・新約中の該当する書名と章、節の順に記した。

例：ツァイナー聖書（1477年）より旧約聖書『出エジプト記』3章4～20節

② 挿絵が印刷面の章、節に一致しない場合は、その旨を記した。

③ 聖書からの引用は、日本聖書協会『聖書 新共同訳』（1987年）による。

## 第1部 旧約聖書

### 1. 「エバの創造」

シェーンスペルガー聖書（1487年）より『創世記』1章1～9節

*Bible [German] Augsburg : Johann Schönsperger, 25 May 1487*

『創世記』冒頭部。頁の60%を占める挿絵の上には『天地創造の書』。挿絵は『創世記』2章21～22節、エデンの園で眠るアダムのあばら骨から神がエバを創造する場面。その下に「ここにモーセ五書の第一、創世記が始まる」とし、「第一章は世界とあらゆる生き物の創造、そして六日に及ぶ神の業について」と要約した後で、装飾頭文字Iにより本文が始まる。「初めに、神は天地を創造された」"In dem anfang hat got beschaffê hymmel vnd erdê"と。因みに類似した挿絵と装飾頭字は既に『ケルン聖書』とその挿絵用の木版版木を受継いだ『コーベルガー聖書』で用いられており、シェーンスペルガーはその模倣である。前例を模倣するのがこの時代の当然の手法であった。

### 2. 「カインによるアベルの殺害」

グリュニンガー聖書（1485年）より『創世記』3章22節～4章7節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

挿絵の下に始まる第四章、冒頭の四行でこの章を要約した後で、本文「さて、アダムは妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み…」"nd adam der …"となる。「さて」"Und"の頭文字Uは印刷せずに空白にしてあり、購入者が挿絵画家に依頼して手書きの彩色文字を描いてもらうはずであった。頁の半分を占める挿絵はアダムとエバの二人の「羊を飼う者」アベル Abel と「土を耕す者」カイン CAIN。労働によって得た神への献げ物がふたりに対する神の寵愛を分ける。弟アベルだけが神の寵愛を受けることを妬み、カインは密かにアベルを殺害するのである。

### 3. 「ぶどう酒に酔い、裸で眠るノア」

グリュニンガー聖書（1485年）より『創世記』9章1～11節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

大洪水の後に唯一生き残ったノアとその息子たちに、神は一族の繁栄を約束する。挿絵の下、文冒頭の空白部には大文字の装飾頭文字 U を描かせるはずであった。Und got der gesegent noe un seyne süne und sprach zu in…神はノアと彼の息子たちを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちよ…」と。挿絵はこれに続く9章20節から27節。箱舟を下りて農夫になったノア NOE は、ある日ぶどう酒を飲んで裸で眠り込む。それを三人の息子のひとりハム CHAM が見付け、兄セム SEM とヤフェト JAPHET に告げる。兄たちは後ろ向きに父に近付いて服をかけた。酔いから醒めたノアはハムの行為に怒り、その息子が呪われることを預言する。

#### 4. 「イサクを欺き、祝福をだましとるヤコブ」

グリュニンガー聖書 (1485 年) より『創世記』27 章 1～13 節

Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485

イスラエル人の祖アブラハムの子イサクは、老いて後に神に祈って双子の兄弟エサウとヤコブを授かった。先に生れたエサウは「赤くて、全身が毛皮の衣のよう」であり、弟ヤコブは兄の踵をつかんで生れた。成長するとエサウは野に出て巧みな狩人になるが、空腹を満たす代償として長子の特権を弟に譲り渡しさえする。目が見えなくなると、イサクはエサウを呼び、狩で獲物を得て料理を作るよう命じた。それを食べ、神の前でエサウに祝福を与えるつもりである。だが妻リベカは夫の祝福をヤコブに与えることを画策して、ヤコブを<sup>そそのか</sup>唆す。彼女は家畜の群から子山羊を選んで夫の好む料理を作り、それを父の前に運ぶようヤコブに言う。そして兄エサウの晴れ着を着せ、腕や首には子山羊の毛皮を播き付けてやる。イサクは妻の策に気付かず、ヤコブを毛深いエサウと思い込んで祝福を与えてしまう。こうして長子の権利のみならず父の祝福さえ奪われて、エサウはヤコブを憎み、父亡き後には弟を殺すことさえ考える。これを知った母リベカは、故郷の兄ラバンを頼って逃れるようヤコブに告げ、夫に対しては「ヤコブにはエサウとは別の部族の娘を妻に迎えさせて欲しい」と説得した。挿絵ではエサウ ESAU が父に命じられて狩に出た留守に、母リベカ Reb[ekka]に<sup>そそのか</sup>唆されて、ヤコブ IACOB が山羊の毛皮を首と手首に巻いて盲目の父イサク ISAAC を欺く。

#### 5. 「ヤコブの梯子」

グリュニンガー聖書 (1485 年) より『創世記』28 章 1～11 節

Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485

文の冒頭部の空白にはここでも大文字の U を装飾頭文字として描き、Und となる。父イサク isaac の命を受けて、ヤコブ IACOB は母方の祖父のもとへ旅立つ。伯父ラバンの娘ラケルを妻にするためである。旅の途中、ヤコブは石を枕に一夜を過すが、夢に地上から天に伸びる梯子<sup>はしご</sup>を神の使いたちが昇り降りしている様を見た。しかもその際、神はヤコブに子孫の繁栄を約束し、その地を彼に与える。ヤコブは枕にした石をその場に立てて柱とし、その地をベテル bETEL と名付けて旅を続ける。

#### 6, 7. 「ヨセフとその兄弟」

グリュニンガー聖書 (1485 年) より『創世記』37 章 8～17 節、38 章 24～39 節

Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485

ヤコブと妻ラケルの子ヨセフは両親が年取ってからの子であったため、とりわけ父の寵愛を受けた。このことで兄たちは彼を妬み、野原で穴に投げ込まれてしまう。挿絵 6 は、羊の放牧に出た野原で兄たちに捕えられ、空の穴に投げ込まれるヨセフ IOSEPN。兄たちはエジプトに下る途中のイシュマエル人 ISMANELITEN の隊商を見、ヨセフを彼らに売ろうと企てる。だが、偶然その場を通りかかった別の隊商が彼を助け、エジプトに連れて行く。そこでヨセフはファラオの宮廷に仕える侍従長に買い取られ、次第に主人の信頼を得て家と財産の管理を委ねられるまでになる。そんな時に侍従長の妻がハンサムで逞しいヨセフに目を付けた。彼女の度重なる誘惑をヨセフは頑なに拒む。ある日のこと、彼女は家に誰もいないのを知り、服をつかんでヨセフをベッドに誘う。ヨセフが服を彼女の手に残して逃げると、家の者たちに、そして夫に訴える。あのヘブライ人の奴隷は私に悪戯しようとしたが、大声で叫んだために服を残して逃げた、と。侍従長は妻の言葉を信じ、ヨセフを投獄した。挿絵 7 は、捕られて<sup>ファラオ</sup>国王 PHARO の獄に投じられるヨセフ JOSEPH と、ヨセフの服を左手にその様子を見守る侍従長の妻。

牢獄の中でもヨセフは神の加護を受けた。二年後、ヨセフはファラオの夢を解き明かしてみせる。今後七年間エジプト全体に大豊作が訪れるが、それに続く七年の間は国を滅ぼすほどの飢饉がやって来る。

それ故今すぐに国の農産物の五分の一を七年間徴収して保管させ、飢饉の七年のために国の備蓄とするように、と。ファラオは見事な夢解きに感心し、即座にヨセフを宮廷の責任者に取り立て、自らに次ぐ地位を与えた。ヨセフは七年の間食糧を町々に貯えさせ、飢饉に備えた。飢饉が始まると、エジプトのヨセフのもとには国外からも穀物を求めてやって来

るようになった。その中にカナン<sup>カナン</sup>の地からやって来たヨセフの兄弟たちもいた。ヨセフはすぐにそれと分ったが、兄たちはヨセフに気付くことはなかった。ヨセフは父ヤコブのこと、そして同行していない末の弟の消息をそれとなく探って策を弄したこと、兄たちは改めて弟を伴って穀物<sup>穀物</sup>を買いにやって来る。ヨセフは彼らを手厚くもてなす一方で兄たちを新たな試みにあわせるのだが、その際の兄たちとのやり取りに自分で耐えられなくなり、素姓を明かす。「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです」と。

## 8. 「ヨセフの埋葬」

### オトマール聖書 (1518 年) より『出エジプト記』1 章 1～7 節

*Bible [German] Augsburg : Sylvan Otmar, 1518*

七年に及ぶ飢饉に遭遇し、兄たちに再会したヨセフは、ファラオの勧めもあって、父 ヤコブをエジプトに迎えることを決意する。これに応じて息子たちやその家族と共にエジプトに向う途中、ヤコブの前に彼の父イサクとイサクの父アブラハムとの神が現れ、エジプトでの一族の繁栄を約束する。ヤコブの子孫はエジプトの地でも数を増し、エジプトで十七年を過して亡くなった。その後も一族は共にエジプトで過す。やがて死に臨んでヨセフは兄弟たちに、自分の死後、神はあなた方の子孫を改めて約束の地へ導いて下さるが、その時には私の遺骨も持って行くようにと言いつつ残した。

ヤコブと息子のヨセフ、そしてその兄弟たちが亡くなった後にも、イスラエルの民はエジプトで増え続けた。だが、ヨセフの偉業を知らない王<sup>ファラオ</sup>がエジプトを支配するようになると、彼はエジプトの民を<sup>そそのか</sup>唆し、彼等はイスラエルの人々に重労働を課して虐待する。また王 PhAro はこの地でイスラエルの民が更に繁栄することを恐れ、ヘブライ人の助産婦シフラ Siphora とプア PhuA に命じた、お前たちの同胞の女が男児を産んだなら、赤子を殺すように、と。助産婦たちは智慧を働かせてそれを回避すると、国王は改めて国民に、生れた男児は全てナイル川に放り込むよう命じた。こうした状況下のエジプトで、ヤコブの息子のひとり、レビの子孫の家に生れ、籠に入れてナイル川に流され、それを拾い上げたファラオの王女に育てられたのが、モーセである。

## 9. 「モーセと燃える柴」

### グリュニンガー聖書 (1485 年) より『出エジプト記』2 章 22 節～3 章 5 節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüniger, 2 May 1485*

ある時モーセは羊の群を追って神の山ホレブに行く。すると、柴の間に炎が燃え上がり、主の御使いが現れる。柴が燃えていながら燃え尽きないことを不思議に思うモーセ MOISES に、神が声をかけて言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみを つぶさに見…彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。…わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ」と。

第3章冒頭には装飾頭文字 M が描かれ、Moyses (MOISES) となる。彼の頭には二本の角が描かれて特徴付けられる。

## 10, 11. 「アロンの杖」

### 10. チェコ語クッテンベルク聖書 (1489 年) より旧約聖書『出エジプト記』6 章～7 章

*Bible [Czech] Kutteneberg : Martin of Tischniowa, 14 Nov. 1489*

### 11. オトマール聖書 (1518 年) より『出エジプト記』6 章 18 節～7 章 12 節

*Bible [German] Augsburg : Sylvan Otmar, 1518*

神はモーセに言われる、「わたしが命じるすべてのことをあなたが語れば、あなたの兄アロンが、イスラエルの人々を国から去らせるよう、ファラオに語るであろう」と。またファラオが求めるならば、目の前で奇跡を行って見せよ、と。モーセ moyses はアロンを伴ってファラオのもとに行き、兄に「杖をとってファラオの前に投げよ」と言うと、アロン Aron の杖はたちまち蛇になった。ファラオ pharo はエジプトの魔術師たちに命じて、同様に杖を蛇に変えさせるが、アロンの杖はそれらの蛇を次々に飲み込んでしまう。

こうしてモーセが神の命じることを語ると、アロンはそのままにファラオとその家臣 たちの前で行ってみせる。だ

がこうした神の「しるしや奇跡」一川の水は血に変わって悪臭を放ち、あらゆる水辺から蛙が全土に這い上がる、家畜の疫病が流行る等々これらの災いはファラオの心を更に頑なにし、イスラエルの民がエジプトを去ることを拒み続けた。だが、神の「最後の災い」一エジプトの人と家畜の初子<sup>ういご</sup>[ういご]がすべて一夜のうちに死ぬことがあって初めて、ファラオはイスラエルの民がエジプトを去ることを許す。

この後に、イスラエルの民がモーセに導かれて二つに分れた「葦の海」、即ち紅海を渡り終える間もなく、後を追って来たファラオの軍が波にのまれる場面になる。ボヘミア王国の都市クッテンベルクは今日のチェコのクトナ・ホラ。『クッテンベルク 聖書』は、ここで出版されたチェコ語訳二つめの聖書。

## 12, 13. 「臨在の幕屋と祭具の作製、技術者の任命」

### 12. オトマール聖書 (1518年) より『出エジプト記』30章16節～31章序文

*Bible [German] Augsburg : Sylvan Otmar, 1518*

### 13. シェーンスペルガー聖書 (1487年) より『出エジプト記』30章37節～31章14節

*Bible [German] Augsburg : Johann Schönsperger, 25 May 1487*

エジプトを出たイスラエルの民は、四十年に及ぶシナイ半島漂泊の旅を始める。父祖の地カナンを目指す旅である。その間、神はモーセを通してシナイ山頂で、イスラエルの民に彼らが守るべき十戒を示す。またアロンとその息子たちを神の祭司に聖別し、神の臨在の幕屋とさまざまな祭具を整えることを求めている。イスラエルの民のうちユダ族のベツアルエル BESELEEL とダン族のオホリアブ COLIAP とを指名して技を磨かせ、幕屋、そこに備える祭具、燭台、香の祭壇、器類、司祭の服などを作らせた。挿絵では彼らが作業する手前の箱に、「十戒」を彫った二枚の石版が見られる。

## 14. 「アロンの子、祭司ナダブとアビフの違反」

### グリューニンガー聖書 (1485年) より『レビ記』9章24節～10章6節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

イスラエルの祖ヤコブの三番目の息子レビに由来するレビ族を、神はシナイ山上で聖職に定めた。そしてレビ族の両親から生れたモーセによるこの旧約第三の書が、祭の生贄、安息日と祝日、偶像の禁止、司祭など、主に祭式を規定するところから、『レビ記』と呼んだ。それら律法の諸規定に挿入されたのが、アロンとその息子たちの聖別の場面であり、アロンの息子ナダブ NADAb とアビフ AbIN が罰せられる物語である。ここに描かれるように、ふたりはそれぞれ香炉に火を入れて薫香を盛り、神に捧げたところ、神の前から火が出てふたりを焼き殺す。神に背く行為だったのであり、旧約聖書の神の厳しさを示す例でもある。

## 15. 「約束の地カナンの偵察」

### グリューニンガー聖書 (1485年) より『民数記』13章23～33節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

イスラエルの民がシナイの砂漠を出、カナンに入るまでの四十年の漂泊を記す。バランの荒野に宿営すると、神の命に従って、モーセはイスラエルの民の長をカナン偵察に派遣する。神がイスラエルの民に与えることを約束した地であり、そこに住む住民の数と強さ、地質、町の様子などを調べ、その地の果物を持ち帰るように、と。四十日の後、彼等はひと房のぶどうの枝を棒に下げて二人で担ぎ、ざくろや無花果を持ってモーセのもとに持ち帰る。乳と蜜の流れるところ、そこに上って行き占領すべきであると報告する者に、他の偵察者は悪い情報を流布して反対する。約束の地に入ろうとしないイスラエルの民に、神は怒りを露にする。



## 16. 「ライオンを引き裂くサムソン」

シェーンスペルガー聖書 (1487 年) より『士師記』14 章 5～16 節

*Bible [German] Augsburg : Johann Schönsperger, 25 May 1487*

モーセの後を継ぎ、イスラエルの民をカナンへと導いたのはヨシュアであった。旧約聖書第七の書『士師記』には、彼の死から、サムエルがサウルを擁立して前 1012 年にイスラエルに王制を布くまでの十二人の士師にまつわる物語が描かれる。士師とは、カナンの占領以降イスラエル王国建設までの政治的、軍事的指導者で、サムソン SAMPSON もそのひとり。

ペリシテ人の支配下で苦しむ時代、不妊に悩むイスラエルの女に神の使いが現れ、サムソンの誕生を預言する。長じて後、彼は神の霊によって怪力を授けられる。ある時一頭の若いライオンに襲われるが、素手で「子山羊を裂くようにライオンを裂いた」。後に彼はペリシテ人に買収された遊女デリラに惑わされて怪力を失う。ペリシテ人の建物を崩壊させて、その下敷になって死んだとされる。

## 17. 「サウルの頭に油を注ぐサムエル」

オトマール聖書 (1507 年) より『サムエル記上』10 章 1～11 節

*Bible [German] Augsburg : Johann Otmar, 1507*

神の預言者としてサムエルは広くイスラエルの民の信頼を得、彼等の指導者としてペリシテ人との戦いに勝利する。すると人々は彼に、他国のように「我々のために裁きを行う王を立て」ることを求める。人々は主なる神が自分たちの上に王として君臨することを拒んだのである。これをサムエルは「悪」と考えたが、神の意にそって人々の要求に従うことを約束する。神はイスラエルの小部族ベニヤミン族出身のサウルをサムエルのもとに上らせる一方で、サムエルには、サウルの頭に油を注いでイスラエルの指導者にせよと命じる。イスラエル王国が誕生したのである。挿絵は従者を連れたサウル SAVL の頭にサムエル SAMAVEL が油を注いで、イスラエルの王に任ずる場面。

その一年後、サウルはイスラエル全体の王になり、翌年には選りすぐりの兵を集める。その中の、サウルの息子ヨナタンのもとに配された兵がペリシテの守備隊を破ったために両者の戦いが再開、生涯に渡ってサウルを苦しめた。また戦の際にサムエルを通して伝えられる神の言葉に従わなかったことから、サウルはイスラエル王の座を追われる。挿絵を印刷面より小さくし、挿絵の両端をボーダーで飾るのが、1507 年版オトマール聖書の特徴 (19, 23)。1518 年版では挿絵を二重線の枠で囲んでいる (8, 11, 12)。

## 18. 「ダビデとゴリアト」

グリューニンガー聖書 (1485 年) より『サムエル記上』16 章 23 節～17 章 7 節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

ダビデはサウルとその息子に次ぐイスラエル第三代の国王。前 1000 年頃に在位した、最も重要な為政者。少年時代に「豎琴を巧みに奏でるうえに、勇敢な戦士で…言葉に分別があって外見も良く、まさに主が共におられる人」としてベツレヘムから連れて来られて、サウルに仕えた。イスラエル軍がペリシテ軍とエラの谷で対峙した際に、ペリシテの陣から大男の職業軍人ゴリアトがイスラエル軍に向かって叫んだ、自分と一騎打ちのできる者を出せ、と。少年ダビデは、「自分は羊飼いとて、羊を襲う熊やライオンを倒したことがある」とサウルに申し出てゴリアトと戦う許しを得る。身構えて近づく敵を目掛けてダビデ DAVID が石投げ紐で飛ばした小石は、ゴリアト GOLIAS の額に食い込み、大男はくずれ落ちた。ダビデは倒れた敵の剣を引き抜くと、ゴリアトの首を切り落した。これを見たペリシテ人たちは逃げ出した。サウル SAUL とその息子ヨナタンは最早ダビデを父の家に返そうとせず、自分が着ていた上着、剣と弓、帯を与えた。

その後ダビデはサウル王のもとで勢威を振り、着実に地歩を固めていく。

## 19, 20. 「ダビデとバト・シェバ」

### 19. オトマール聖書 (1507 年) より『サムエル記 下』10 章 8～11 章 序

*Bible [German] Augsburg : Johann Otmar, 1507*

### 20. グリュニンガー聖書 (1485 年) より『サムエル記 下』11 章 1～8 節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

イスラエルの王になると、ダビデはエルサレムを征服して王都とし、また対外遠征を行ってエドム、ペリシテ人等を征服する。イスラエルの全軍をアンモン人との戦いに送り出した後、王宮に残ったダビデは屋上から、ひとりの女が水浴びをしているのを見た。ダビデはすぐに女を王宮に召し入れて床を共にし、女は身ごもった。彼女は、出征中の兵士ウリヤの妻でバト・シェバと言う。ダビデはウリヤを呼び戻し、懐柔策を弄するが失敗したため、戦場に送り返す。「ウリヤを最前線に送り出して、戦死させよ」との手紙を添えて。ウリヤ戦死の報せを受けると、喪が明けるのを待って、ダビデ DAVID はバテ・シェバ bERSABBbE[A]を妻にする。だが神はダビデに罰を下した。生れた子は七日目に亡くなった。その後バテ・シェバが再び身ごもって生れたのが、ソロモンである。

## 21, 22. 「ソロモンの智恵」

### 21. シェーンスペルガー聖書 (1487 年) より『列王記 上』3 章 1～12 節

*Bible [German] Augsburg : Johann Schönsperger, 25 May 1487*

### 22. グリュニンガー聖書 (1485 年) より『列王記 上』3 章 6～14 節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

ダビデの死後、兄たちを差し置いて王国を継いだのはソロモンであった。どんな願いをも叶えようとの神の言葉に、ソロモンは、民を正しく裁くことができる智恵を望んだ。主はこの願いを喜び、彼に富と栄光、長寿をも約束した。ある時王のもとにふたりの遊女が訴えて出る。一方の主張によると、両者は同じ家に住んで同じ頃に出産したが、相手の女が睡眠中に自分の赤子を圧死させ、その挙句に私の子供と取り替えた、と。生き残った赤子を巡り、双方が自分の子であると主張して争うのを聞き、ソロモンは剣を持ってくるよう命じた、赤子を二つに裂いて双方に半分ずつ与えよ、と。これを聞き、一方の女は同意するが、他方は赤子を殺さずに相手に与えるよう主張する。これよりソロモンは宣言を下した、赤子を相手に与えることを認めた者こそが真の母親である、と。

## 23. 「ダビデの勇士エルアザル」

### オトマール聖書 (1507 年) より『歴代誌 上』11 章 18～44 節

*Bible [German] Augsburg : Johann Otmar, 1507*

ダビデがシオンの要害エルサレムを陥れて王都にすると、イスラエルの民もここに集り、ダビデの町と呼ばれるようになった。王の周囲には多くの勇士が集って、ダビデの統治に協力した。そのひとりがエルアザル ELEAZNR。広大な麦畑でペリシテ人たちに襲われた際、人々はダビデを残して逃げるが、彼は踏み止まって奮闘し、大勝利を収めた。挿絵は剣を振るってペリシテ人を倒すエレアザルと、それを見守るダビデ。

## 24. 「ヨブに答える主」

グリューニンガー聖書 (1485 年) より『ヨブ記』42 章 1～11 節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

ヨブは東の国一の富豪であり、神を畏れ、悪を避けて、一族と共に幸せに暮していた。神に対する彼のこうした態度に疑いを抱いたサタンに、神はヨブを試練に合わせることを許す。ヨブは財産と家族とを一時に失った上、重い病に冒されるが、厚い信仰は変ることがない。第 4 章以下に始まるヨブと三人の友人との議論は一種の神学論争と言われ、40 章以降では神とヨブとの応答に引継がれる。最後に神は改めてヨブを義とし、富と家族とを与えた。挿絵はテマン人エリファズ TEMANITE ELIPHAN 等の友人たちとの議論後、主の呼び掛けに応えるヨブ Iob。本文冒頭の余白には装飾頭文字 U を挿入する。

## 25. 「豎琴を奏でる詩人ダビデ」

ケルン聖書 (1478 年) より『詩篇』冒頭部

*Bible [Low German] Cologne : Heinrich Quentell, about 1478*

『詩篇』は神への賛美と嘆願、感謝、また教訓、救済などを歌った 150 篇の詩を収める。ダビデの作と伝えられ、中世ヨーロッパの教会では聖職者の聖務日課や、一般の信者はミサの際に頻繁に口にした。そのため、聖書の他の諸書と異り、早くから多くの近代語訳がつくられた。

豎琴を奏でるダビデを、鳥の姿で描かれた聖霊が祝福する。文章冒頭部に「ここに詩篇に関する預言者ダビデの序文が始まる」とあり、その下の装飾頭文字は「私は Ich」の I。右段の装飾頭文字は S と W で、夫々『詩篇』冒頭の二篇の師の最初の語「至福の Selig」および「なぜ Warumb」の頭文字。ダビデによる序文は、ウルガタ聖書に依拠したか。

## 26, 27. 「小預言書から」

ゾルク聖書 (1480 年) より

*Bible [German] Augsburg : Anton Sorg, 3 Jan. 1480*

### 『ホセア書』序文、1 章 1 節～2 章 7 節

ホセアは前八世紀、イスラエルの預言者。十二の小預言書の第一。イスラエルの民に、神に対する背信を戒めて悔悛を勧め、また救済を預言する。冒頭部は『十二小預言書』の序文。その後、「序文は終る。そしてホセアの預言の書が始まる」と続いて「第 1 章」と記される。その最初の語 Das の頭文字 D には、柱頭に異教の神パール Baalim を奉って拝む人々と彼等を戒める預言者ホセア Osee が描かれる。また二段組の第二段の空白には、装飾頭文字 M を描き、「わが民 Mein volck」(2 章 3 節) とする。

### 『ヨエル書』1 章 1～13 節

前 922 年、イスラエル王国は分裂した。南部はエルサレムを中心にユダ王国となり、前 586 年にバビロニアによって滅ぼされる。ヨエルはそのユダ王国でいなごの大群による国土の荒廃という黙示録的な預言を行った。装飾文字は『ヨエル書』第 1 章 1 節「(ペトエルの子ヨエルに臨んだ) 主の言葉 Das wort des Herren…」の最初の語 Das の頭文字 D には「神の霊の降臨」を預言するヨエル Joel が描かれる。

なお、二段組の第一段は『ホセア書』14 章 1 節～10 節。冒頭の空白には装飾頭文字 S を描き込んで「サマリアは Samaria」となる。末尾には「預言者ホセアが終り/預言者ヨエル Johel が始まる/第 1 章」。

## 28. 「小預言書から」

### ツァイナー聖書 (1475/76 年) より

*Bible [German] Augsburg : Günther Zainer, 1475 or 1477*

「オバデヤ書」から装飾頭文字 D

死海東部に隣接する高地エドム Edom はダビデ以来イスラエルに従属した。だが、特に前 586 年のバビロニアによるエルサレム攻略に際しては、エドム人が彼等に荷担してここを中心とするユダの地を占領したため、ユダの人々はエドムを憎んだ。こうした背景のもとに、前五世紀の預言者オバデヤ Abdias は国民をエドムとの戦いに駆り立てる。

エルサレム南東に位置するシオン Syon には幾多の建物や塔、人物が描かれて主の都エルサレムとされるのに対し、エドムは樹木が茂るのみで、滅亡が預言される。

『ハガイ書』から装飾頭文字 I

装飾文字 I を挟んで預言者ハガイ Aggeus が、ユダの総督の子ゼルバベル Sorbäb および大祭司の子ヨシュア Jesua に主の言葉を伝える。ダレイオス大王 (ペルシャ王ダリウス一世) の治世 (前 521-486 年)、ハガイはイスラエルの人々を励まし、神殿の再建を促し、人々にその後の栄光を預言する。

## 第 2 部 新約聖書

### 29, 30. 「マルコによる福音書」

#### 29. ケルン聖書 (1478 年) より 『マルコによる福音書』序文

*Bible [Low German] Cologne : Heinrich Quentell, about 1478*

#### 30. ドイツ語聖書 (刊年不明) 『マルコによる福音書』1 章 1~17 節

同一場面の挿絵は前例を模倣し、ほぼ同じ図柄で描かれた。図柄を変えることが憚られたかのようなのである。ここに挙げたケルン聖書は、リューベク聖書と並んで挿絵の美しさで知られる。もう一方の聖書が 18 点のいずれかは不明。挿絵では福音書記者聖マルコ S. MARCVS が、彼のシンボルであるライオンを足下に從えてキリストの福音を記す。棺から復活するイエスと、それに気付かず寝入る兵士。だが、ここには聖書の記述から外れた、民間の伝承さえ描かれる。エデンの園の中央に生命の樹と並んで生える智慧の樹 — 死期の迫ったアダムは智慧の樹の実を食べたことを悔う。息子セツはエデンの園へ行き、門の番をする天使ミカエルに父への慈悲を乞う。すると天使は生命の樹の種 (アダムが食べた智慧の樹の実の種から生じた苗木とも) をセツに与え、彼は父の埋葬時にそれを父の口に播く。やがて大木になった樹は切り倒されてソロモンの神殿の扉になる。

後に扉は外され、多くの年月の後にその材からキリストの十字架が作られた。人の祖の冒した原罪とキリストによる救済とを結び付ける物語も、ここには描かれている。

### 31. 「ヨハネによる福音書から」

#### ケルン聖書 (1478 年) より 『ヨハネによる福音書』序文

*Bible [Low German] Cologne : Heinrich Quentell, about 1478*

四人目の福音書記者、使徒聖ヨハネ S. IOHANES のシンボルは鷲。彼は「三位一体」、すなわち父 (王冠を冠った神) と子 (光輪のイエス) と聖霊 (鳥の姿で描かれる) による福音を、神とイエスの手が持つ聖書に書き留めた。

### 32. 「使徒たちの手紙」

ゾルク聖書 (1480 年) より『ペトロの手紙 第二』2 章 20 節～3 章 18 節

『ヨハネの手紙 第一』1 章 1 節

*Bible [German] Augsburg : Anton Sorg, 3 Jan. 1480*

使徒聖ペトロは第一代ローマ教皇。手紙は小アジアのキリスト教徒に宛てたとされる。福音書記者、使徒聖ヨハネによると言われる手紙は三通が残された。第二段中頃で前者が終わり、最初の D の 3 行前でヨハネの手紙の始まりが告げられる。ここから二つ目の D の 1 行上から『ヨハネの手紙一』が始まる。

### 33, 34. 「開かれた六つの封印」

33. グリュニンガー聖書 (1485 年) より『ヨハネの黙示録』6 章 1 節～9 節

*Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485*

34. ドイツ語聖書 (刊年不明) 『ヨハネの黙示録』6 章 1 節～13 節

使徒聖ヨハネはパトモス島で、幻視のうちに天使から伝えられた啓示を書き留めたという。すぐにも起こるはずのことを、人々に伝えるために、神がキリストに与え、キリストは天使を通してヨハネに示した。さて、神の意を収めた七つの巻物、その封印を小羊がひとつずつ解いていくと…。

### 35. 「女と七つの頭を持つ竜」

ドイツ語聖書 (刊年不明) 『ヨハネの黙示録』より 12 章 7 節～13 章 3 節

「…天に大きなしるしが現れた。一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶっていた。女は身ごもっていた。…もう一つのしるしが天に現れた。見よ、火のように赤い大きな竜である。これには七つの頭と十本の角があって、その頭に七つの冠をかぶっていた。…さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが、竜に戦いを挑んだのである。…」

参考展示：さまざまな聖書

1. 中世写本零葉『旧約聖書 詩篇』より “鐘を演奏するダビデ王” ベルギー 13世紀頃  
[Bible. O.T. Psalms] : [Belgium] : [s. n.] , [ca1250-1300?] <091.6/29//H>
2. 中世写本零葉『旧約聖書 レビ記』 フランス 14世紀頃  
[Bible. O.T. Leviticus] : [France] : [s. n.] , [13--?] <091.6/23//H>
3. 中世写本『貧者の聖書』 ヴァチカン教皇庁立図書館蔵本ファクシミリ版  
[Biblia pauperum] : [S. l.] , [s. n.] <099/4320//D>
4. 「ゲーテンベルク 42 行聖書」(マザラン版) 【ファクシミリ版】  
[Biblia sacra Mazarinaea]:Mainz. Gutenberg [ca. 1454-55]. <099.3/433//H>
5. 「マルティン・ルター訳聖書」 【ファクシミリ版】  
The Luther Bible of 1534: complete facsimile edition <個人蔵>
6. 「欽定英訳聖書」 【ファクシミリ版】  
The Holy Bible: a facsimile of the Authorized Version published in the year 1611  
<099.3/281/>

旧約聖書				
1	旧約	創世記	「エバの創造」	シェーンスペルガー聖書（1487年）より『創世記』1章1～9節 *挿絵は『創世記』2章21～22節
				Bible [German] Augsburg : Johann Schönsperger, 25 May 1487
2	旧約	創世記	「カインによるアベルの殺害」	グリュニンガー聖書（1485年）より『創世記』3章22節～4章7節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
3	旧約	創世記	「ぶどう酒に酔い、裸で眠るノア」	グリュニンガー聖書（1485年）より『創世記』9章1～11節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
4	旧約	創世記	「イサクを欺き祝福をだましとるヤコブ」	グリュニンガー聖書（1485年）より『創世記』27章1～13節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
5	旧約	創世記	「ヤコブの <sup>ハシゴ</sup> 梯子」	グリュニンガー聖書（1485年）より『創世記』28章1～11節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
6	旧約	創世記	「ヨセフとその兄弟」	グリュニンガー聖書（1485年）より『創世記』37章8～17節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
7	旧約	創世記	「ヨセフとその兄弟」	グリュニンガー聖書（1485年）より『創世記』38章24～39節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
8	旧約	出エジプト記	「ヨセフの埋葬」	オトマール聖書（1518年）より『出エジプト記』1章1～7節
				Bible [German] Augsburg : Sylvan Otmar, 1518
9	旧約	出エジプト記	「モーセと燃える柴」	グリュニンガー聖書（1485年）より『出エジプト記』2章22節～3章5節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
10	旧約	出エジプト記	「アロンの杖」	チェコ語クッテンベルク聖書（1489年）より『出エジプト記』6章～7章
				Bible [Czech] Kuttenberg : Martin of Tischniowa, 14 Nov. 1489
11	旧約	出エジプト記	「アロンの杖」	オトマール聖書（1518年）より『出エジプト記』6章18節～7章12節
				Bible [German] Augsburg : Sylvan Otmar, 1518
12	旧約	出エジプト記	「臨在の幕屋と祭具の作製、技術者の任命」	オトマール聖書（1518年）より『出エジプト記』30章16節～31章序文
				Bible [German] Augsburg : Sylvan Otmar, 1518
13	旧約	出エジプト記	「臨在の幕屋と祭具の作製、技術者の任命」	シェーンスペルガー聖書（1487年）より『出エジプト記』30章37節～31章14節
				Bible [German] Augsburg : Johann Schönsperger, 25 May 1487
14	旧約	レビ記	「アロンの子、祭司ナダブとアビフの違反」	グリュニンガー聖書（1485年）より『レビ記』9章24節～10章6節

				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
15	旧約	民数記	「約束の地カナンの偵察」	グリュニンガー聖書 (1485 年) より『民数記』13 章 23～33 節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
16	旧約	士師記	「ライオンを引き裂くサムソン」	シェーンスペルガー聖書 (1487 年) より『士師記』14 章 5 節～16 節
				Bible [German] Augsburg : Johann Schönsperger, 25 May 1487
17	旧約	サムエル記上	「サウルの頭に油を注ぐサムエル」	オトマール聖書 (1507 年) より『サムエル記上』10 章 1～11 節
				Bible [German] Augsburg : Johann Otmar, 1507
18	旧約	サムエル記上	「ダビデとゴリアト」	グリュニンガー聖書 (1485 年) より『サムエル記上』16 章 23 節～17 章 7 節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
19	旧約	サムエル記下	「ダビデとバト・シェバ」	オトマール聖書 (1507 年) より『サムエル記下』10 章 8 節～11 章序
				Bible [German] Augsburg : Johann Otmar, 1507
20	旧約	サムエル記下	「ダビデとバト・シェバ」	グリュニンガー聖書 (1485 年) より『サムエル記下』11 章 1～8 節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
21	旧約	列王記上	「ソロモンの智慧」	シェーンスペルガー聖書 (1487 年) より『列王記上』3 章 1～12 節
				Bible [German] Augsburg : Johann Schönsperger, 25 May 1487
22	旧約	列王記上	「ソロモンの智慧」	グリュニンガー聖書 (1485 年) より『列王記上』3 章 6～14 節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
23	旧約	歴代誌	「ダビデの勇士エルアザル」	オトマール聖書 (1507 年) より『歴代誌』11,18～11,44
				Biblia [German] Augsburg : Johann Otmar, 1507
24	旧約	ヨブ記	「ヨブに答える主」	グリュニンガー聖書 (1485 年) より『ヨブ記』42 章 1～11 節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
25	旧約	詩篇	「豎琴を奏でる詩人ダビデ」	ケルン聖書 (1478 年) より『詩篇』冒頭部
				Bible [Low German] Cologne : Heinrich Quentell, about 1478
26	旧約	小預言書	「ホセア書」	ゾルク聖書 (1480 年) より『ホセア書』序文、1 章 1 節～2 章 7 節
				Bible [German] Augsburg : Anton Sorg, 3 Jan. 1480
27	旧約	小預言書	「ホセア書」「ヨエル書」	ゾルク聖書 (1480 年) より『ホセア書』14 章 1～10 節 ; 『ヨエル書』1 章 1～13 節
				Bible [German] Augsburg : Anton Sorg, 3 Jan. 1480
28	旧約	小預言書	「オバデヤ書」	ツァイナー聖書 (1475or1477 年) より『オバデヤ書』装飾頭文字 D
			「ハガイ書」	ツァイナー聖書 (1475or1477 年) より『ハガイ書』装飾頭文字 I
				Bible [German] Augsburg : Günther Zainer, 1475 or 1477



新約聖書				
29	新約	マルコによる福音書	「マルコによる福音書」	ケルン聖書 (1478 年) より『マルコによる福音書』序
				Bible [Low German] Cologne : Heinrich Quentell, about 1478
30	新約	マルコによる福音書	「マルコによる福音書」	ドイツ語聖書 (刊年不明) 『マルコによる福音書』序
				Bible [German]
31	新約	ヨハネによる福音書	「ヨハネによる福音書」	ケルン聖書 (1478 年) より『ヨハネによる福音書』序
				Bible [Low German] Cologne : Heinrich Quentell, about 1478
32	新約	ペテロ書簡第2	「使徒たちの手紙」	ゾルク聖書 (1480 年) より『ペトロの手紙 第2』2章20節～3章18節 『ヨハネの手紙 第1』1章1節
				Bible [German] Augsburg : Anton Sorg, 3 Jan. 1480
33	新約	ヨハネ黙示録	「開かれた六つの封印」	グリュニンガー聖書 (1485 年) より『ヨハネの黙示録』6章1～9節
				Bible [German] Strassburg : Johann Grüninger, 2 May 1485
34	新約	ヨハネ黙示録	「開かれた六つの封印」	ドイツ語聖書 (刊年不明) 『ヨハネの黙示録』6章1～13節
				Bible [German]
35	新約	ヨハネ黙示録	「女と七つの頭を持つ竜」	ドイツ語聖書 (刊年不明) 『ヨハネの黙示録』12章7節～13章3節
				Bible [German]

### 参考展示

1①	中世写本零葉『旧約聖書 詩篇』より“鐘を演奏するダビデ王” ベルギー 13世紀頃
	[Bible. O.T. Psalms]:[Belgium] : [s.n.] , [ca1250-1300?]
2②	中世写本零葉『旧約聖書 レビ記』 フランス 14世紀頃
	[Bible] [France] : [s.n.] , [13--?]
3	中世写本『貧者の聖書』 ヴァチカン教皇庁立図書館蔵本ファクシミリ版
	[Biblia pauperum]
4	ゲーテンベルク 42 行聖書(マザラン版)【ファクシミリ版】
	[Biblia sacra Mazarinaea]: Mainz. Gutenberg [ca. 1454-55].
5	マルティン・ルター訳聖書 【ファクシミリ版】
	The Luther Bible of 1534 : complete facsimile edition
6	欽定英訳聖書 【ファクシミリ版】
	The Holy Bible : a facsimile of the Authorized Version published in the year 1611



**第 20 回明治大学中央図書館企画展示**

**聖書の挿絵**

**－「木版挿絵入西洋初期印刷本零葉コレクション」より**

企画：「木版挿絵入西洋初期印刷本零葉コレクション」

自主研修グループ（鈴木秀子、金澤敦子、吉田千草）

編集：中央図書館ギャラリー企画運営 WG

解題執筆：吉田 正彦（明治大学図書館長・文学部）

発行：明治大学図書館

発行日：2007 年 5 月 21 日